

特集1

東京大学木曾観測所 50 周年を機にした

社会還元・地域貢献事業

衣笠健三、森由貴、近藤荘平、新納悠、高橋英則、小林尚人(東大木曾観測所)、
瀧田怜、酒向重行(東大天文学教育研究センター)、渡邊文雄、川村晶、神前卓爾、
ほか木曾観測所サポーターズクラブ、大西浩次(国立長野高専)、宮地美由紀(塩尻
星の会)、ほか「長野県は宇宙県」連絡協議会

1. はじめに

木曾観測所は東京大学東京天文台の5番目の観測所として1974年10月1日に開所されました。現在は、口径105cmのシュミット望遠鏡を中心とした観測研究や観測機器の開発、大学・大学院の教育活動に加え、アウトリーチや星空振興などの社会還元や地域連携活動を3つ目の柱として活動しています。その結果、東京大学の地方施設として、大学と社会と繋げる大切な役目も果たすようになりました。

昨年2024年、木曾観測所は50周年を機に、将来につながる様々なイベントを実施しました。また、「長野県は宇宙県」連絡協議会でも木曾観測所と連携した長野県全県での星空観望会を実施しました。この記事では、これらの企画について簡単に紹介します。観測所50周年自体については、理学系研究科の以下の紹介記事をご参照ください[1]。

2. 木曾観測所主催イベント

地元木曾郡、ひいては長野県の方々との対話や良好な協力関係は開所以前から現在に至るまで長年にわたり続いており、観測所の運営に欠かせないものになっています。そのため、木曾観測所50周年のイベントは、地域との共催や協力によって木曾郡の皆様に参加できるようなものとして、以下のように開催しました。

(1) 50周年記念シンポジウム・記念式典・

祝賀会 (2024年12月8日(日) 14:00-19:30、
木曾文化公園、主担当：近藤、森)

(2) 50周年記念巡回写真展「写真で見る木
曾観測所の50年」(2024年10月9日(水)
~12月5日(木)、木曾郡6町村の文化セン
ター等の会場、主担当：新納)

(3) 木曾郡内の小中学校向けの見学(随時受
け入れ、主担当：新納)

2.1 50周年記念シンポジウム・記念式典・
祝賀会

木曾観測所50周年を記念したイベントとして、長野県知事をはじめ、地元町村長や地権者の方々のご臨席のもと、12月8日(日)に木曾広域連合木曾文化公園において実施しました。

(1) 記念シンポジウム



図1 記念シンポジウムのポスター

このシンポジウムは、第1部の土居国立天文台長による講演会と、第2部の阿部長野県知事をはじめとした5人によるパネルディスカッションで構成されています(図1)。

土居台長は、東大在学時から研究活動のため観測所に来られており、2008-2016年には木曾観測所長、その後も2024年まで東大天文学教育研究センター長を務められ、木曾観測所を最もよく理解されている方の一人です。講演会では、「木曾シュミット望遠鏡半世紀の成果と今後への期待」と題し、1950年代の構想段階から始まり、現在までの歩み、そして将来に向けての展望などをわかりやすくお話いただきました。設立前より地元との協力体制を構築していたこと、そして早い段階からアウトリーチを意識した活動(例えば1998年開始の全国の高校生を対象とした「銀河学校」など)があったことが印象的でした。

講演会の後に行われたパネルディスカッションは、阿部知事のほか、土居台長、そして「長野県は宇宙県」連絡協議会の大西会長、木曾地域からは木曾星の会創設者でもある前木曾教育会長の畑英利氏、そして観光のスペシャリストとしてJTB総合研究所/日本アドベンチャーツーリズム協会理事である山下真輝氏といった5名をパネラーとし、小林木曾観測所長をモデレーターとして「長野県の夜空に広がる無限の可能性～星空を活かした木曾地域の活性化について」というタイトルで議論を行なっていただきました。阿部知事からは、木曾地域や長野県の星空は地域の財産であり、観光や教育だけでなく、産業に関係するものであるため、ぜひ連携してやっていきたいとの発言がありました。木曾地域の特徴である空の暗さ、歴史、交通の要衝など、その潜在的な価値が高いことは誰もが認めるところであり、それを今後どのように活かしていくかが議論されました。このシンポジウムにより星空を活かした地域連携の土台を作

る良い機会となりました(図2)。

これらのシンポジウムには一般参加者や関係者を含め150名ほどが参加されました。木曾観測所のこれまでのあゆみとともに、今後への期待について多くの議論が行われました。



図2 パネルディスカッションの様子

(2) 記念式典・祝賀会

シンポジウムに引き続き、記念式典を同会場で、そして祝賀会を同施設内で実施しました。これらの会を通して、地域の皆様によるこれまでの多大な協力と支援に感謝を示すとともに、50周年という節目において、長年続いてきた良好な関係を確認する機会にもなりました。

開催日の12月8日はちょうど祝賀会開催時間に土星食があり、木曾観測所サポーターズクラブ[2]が、祝賀会会場において土星食のライブ映像をスクリーンで見られるようなイベントを実施しました。映し出されたきれいな土星食が参加者全員の注目を集めたのは言うまでもありません。

2.2 記念巡回写真展「写真で見る木曾観測所の50年」

木曾郡内6町村の会場において、木曾観測所の歴史をおさめた記録写真や木曾観測所で撮られた天体写真の巡回展示を行いました。これは、50年間の歩みを写真を通じて振り返

り、木曾の星空環境と地域社会に支えられて継続的に行われている観測所の活動を広く知ってもらうことを目的としています。地域の方々とともに歩んできた観測所であることを知ってもらうため、各町村の公民館や文化ホールといった地域住民が行きやすい場所に 1 週間程度ずつ展示して頂きました（表 1）。

表 1 記念巡回写真展の日程と会場

日程	会場
10/9-15	木曾町文化交流センター
10/17-23	王滝村公民館
10/25-31	上松町ひのきの里総合文化センター
11/2-7	木祖村藪原宿にぎわい広場笑ん館
11/21-27	南木曾会館
11/29- 12/5	大桑村歴史民族資料館 (11/30 星空観望会)

2.3 木曾郡内小中学生の見学受け入れ

50 周年を機に、木曾郡全ての子どもたちに一度は観測所を訪れてほしいという思いから見学の呼びかけと受け入れを実施しました（図 3）。2024 年は 4 校の見学と特別授業を行いました（表 2）。本見学イベントは、全校対象に通例行事として継続していきます。

表 2 木曾郡内小中学校見学受け入れ

日程	学校と学年	人数
8/26	大桑小学校 6 年生(大桑村)	14
8/27	三岳小学校 4 年生(木曾町)	9
9/24	上松小学校 6 年生(上松町)	29
9/25	王滝小学校 4 年生(王滝村)	2

2.4 その他

長野県の魅力を県内外に発信するラジオ番組「峰竜太とみんなの信州」（9 月 14 日放送分）に小林所長が出演し、木曾観測所と 50 周年のイベントについて紹介しました。直前の 9 月 7 日放送分には「長野県は宇宙県」

代表として



図 3 木曾観測所での見学の様子

大西会長が出演し、宇宙県の魅力と次に説明する観望会について紹介しています。

また、長野県小海町で毎年開催されている「星と自然のフェスタ」において、小林所長が一講座を担当し、木曾観測所 50 年の歩みなどについて紹介しました。

3. 「長野県は宇宙県」東京大学木曾観測所 50 周年記念「長野県！出かけよう星空観望会」

「長野県は宇宙県」連絡協議会でも、木曾観測所 50 周年を記念するイベントとして、長野県全県に呼びかけて行う観望会を企画しました（表 3 参照）。木曾観測所が開所 50 周年の 10 月から 12 月は、木星や土星などの惑星が観望好期を迎えるだけでなく、話題の紫金山・アトラス彗星の観望時期でもあるため、長野県内では数多くの施設が観望会を行うことが想定されました。そこで、これらの観望会の情報集約を行うとともに、「木曾観測所 50 周年記念」を入れたタイトルをつけ統一的なイベントとして実施することにより、長野県内の各施設と団体の有機的な連携を構築するとともに、「長野県は宇宙県」、木曾観測所 50 周年の PR も行うことができると考えました。

7 月に呼びかけを実施した結果、科学館やプラネタリウム施設、そして天文同好会など

の約 20 の施設や団体に協力をいただけることになり、イベントの PR 用チラシ、そして参加者全員に配布する木曾観測所 50 周年を記念した特製シールを作成しました (図 4)。

期間の前半は悪天候のため観望会を実施できないところが多くありましたが、後半以降は天候も安定し、多くの会場で大彗星となった紫金山・アトラス彗星や惑星などの観望ができたようです。最終的には、10月5日(土)～12月8日(日)の期間で、長野県内 23ヶ所、合計 41 回の観望会イベントが実施され、のべ 1000 人の方が参加されました。観望会を通して、長野県には綺麗な星空があることをあらためて感じていただけたかと思います。

表 3 「長野県!出かけよう星空観望会」概要

日程	2024/10/5(土)～12/8(日)
主催	「長野県は宇宙県」連絡協議会
共催	長野県天文愛好者連絡会(ながてん)、 長野県プラネタリアム連絡協議会
後援	東京大学木曾観測所、長野県
観望会 実施 団体	長野県内の科学館やプラネタリアム 施設、天文同好会や星の会など (計 23ヶ所)にて実施
HP	https://uchuuken.jp/event/2024-kiso50/index.html
参加数	約 1000 人

4. おわりに

これらの 50 周年記念事業を実施することによって、地元地域のコミュニティとの関係が強化されただけでなく、広く長野県全体での新しい有機的なネットワークが構築でき、今後の社会還元・地域連携事業のベースができたことは大きな収穫でした。

最後にエピソードを一つ紹介します。NHK 長野放送局が 2014 年に独自制作した、木曾観測所を舞台としたドラマ「木曾オリオン」(主演:和久井映見さん)が 2025 年 3 月に

長野県限定で再放送されました。これは、記念式典に来席された NHK 長野放送局の副局長に、地元の方々からの要望を観測所からお知らせしたことがきっかけでした。このように、これからも地元から愛される観測所として、活動を続けていきたいと考えています。



図 4 「長野県!出かけよう星空観望会」の PR 用チラシ

文 献

- [1] 東京大学大学院理学系研究科ニュース「木曾の美しい星空でビッグデータサイエンス」
<https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/info/10677/>
- [2] 木曾観測所サポーターズクラブ
<https://nagano-star.jp/org/kiso-sc/>



衣笠 健三